

第3学年保健体育科学習指導案

日 時：令和5年11月1日（水）5校時

対象学級：洋野町立種市中学校 3年B組

指導者：高橋 敬

1 単元名 E 球技 イ ネット型 バレーボール

2 内容のまとめ

本単元は【E 球技 イ ネット型】に分類されており、1、2年必修、3年選択の扱いとなっている。

3 単元について

(1) 生徒観

1年次ではワンバウンドまで有効にするなど、ラリーを繋ぐことを重視した授業を行い、2年次ではレシーバー、セッター、アタッカー等のポジションを意識させ、味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことを意識した練習及びゲームを行っている。

学級活動の様子から話し合い活動には協力して参加している様子が伺える。保健体育の授業ではタブレットで動きの撮影を行い、仲間とともに振り返り自己の課題を発見したり、自分が考えたことをグループ内で共有したりする時間を取っている。事前アンケートでは「話し合いの場面で大事にしていることは何か」について、仲間の声に耳を傾けることを大切にしていると答えた生徒がほとんどであった。

自分たちで課題に向き合おうとする姿勢、運動の苦手な仲間を巻き込んで活動する姿勢が見られるなど、運動に前向きな生徒が多い。事前アンケートの結果より、体育の授業及びバレーボールの授業が好きな生徒は多い。みんなでボールを繋ぐことに楽しさを感じていたり、点が決まった際のハイタッチやみんなで喜び合ったりするところに楽しさを感じている。一方で心配な事として、ミスをして仲間に迷惑をかけることを挙げている生徒が数名いた。そこで、基本的なボール操作から段階的に技能の習得を図る中で、仲間と協力しながら課題を解決し、身に付いた力が試合で発揮できるような授業づくりを大切にしていきたい。

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領〔体育分野 E 球技 第3学年〕の内容であり、「イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。」をねらいとしている。第1学年及び第2学年のボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることをねらいとした学習を受けて、第3学年では、ポジションの役割に応じたボールや用具の操作によって、仲間と連携した「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立てたりして、相手側のコートの中をめぐり攻防ができるようにする。

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型から構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを

味わうことのできる運動である。その中で、ネット型に類するバレーボールは、ネットをはさんで相対するチームが、サービス、レシーブ、トス、アタック、ブロックなどの技術を用い、3回以内に相手コートに返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うスポーツである。ネットをはさんで行うことによって、混戦したボールの奪い合いがなく相手に邪魔されない。そのため、自分のチームに適した作戦を組み立て、実践しやすい。また、プレイやルールも理解しやすく、チーム全員がボールに触れる機会がある。ラリーを続けることができたときには、得失点に関係なく全員で楽しさを味わうことができる。そのため、個々のボールのコントロール技能が要求される競技でもあり、ボールをつないで得点をするためには、仲間と協力するチームワークも求められる。

そして、スピードと変化のあるプレイにより、敏捷性や巧緻性、筋持久力などが高まる。さらに、仲間と連携したプレイにより得点を競い合うため、協調性も身に付くことが期待される。

(3) 指導観

① 研究との関わり

本校の研究主題は「主体的に学び合う生徒の育成～考えを伝え、意見を聞く対話的活動の充実を通して～」である。3年次では、1、2年次で身に付いた基本的なボール操作でラリーを繋ぐことに加え、サーブレシーブをセッターに返し、セッターがトスを上げてスパイク攻撃に繋げる3段攻撃を軸に、それぞれの役割を意識した攻防での点の取り合いに楽しさを感じさせたい。

そのために、レシーブ練習やスパイク練習などの個別の練習を、連携した動きに繋げることが重要だと考える。試合で練習した動きが出るように授業の流れを作っていくとともに、自分のチームの課題を見つけ修正する場面においては話し合いの視点を明確にして意見を出しやすくしたい。

また、体力差や性別の違いに考慮してポジションを決めたり、お互いに助言し合い、教え合ったりすることで球技に自主的に取り組む姿勢を育みたい。

② 対話的活動について

振り返りの場面ではICT機器を用いて仲間の振り返りの内容を共有しやすいようにしている。文章化が苦手な生徒もいるが、他者の考えを参考にしながら自分の考えをまとめやすくなるようにしている。また、話し合いの場面では意図的に二人での話し合いの場面を設け、自分の意見を伝えやすい人数構成を意識したい。

4 単元計画

単元の目標	知識及び技能		次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、(体力の高め方)、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。									
	思考力、判断力、表現力等		攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。									
学びに向かう力、人間性等		球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。										
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント	
学習の流れ	0	※オリエンテーション ※ルール、特性、基本的なボール操作	1. 準備・ウォーミングアップ・健康観察・本時のねらいの確認									・3つの資質・能力の内容をバランスよく指導、評価する ・ICT機器を活用し、課題解決に向けた対話的な学びにつなげる。 ・自己の能力に合ったポジションを仲間と共に見つけ自己有用感を味わえるようにする。
	10		サーキットドリル (ボール操作)	2. サーキットドリル(ボール操作) ※1分×5種目 ①キャッチボール②ジャンプキャッチ③パス④ペッパー⑤円陣パス					ゲーム I ・チームで目標を定めてゲームをする。	リーグ戦	リーグ戦	
	20			サブ・レシーブ	トス・アタック	3 段攻撃練習		4. チームタイム ・ゲーム I を振り返り、成果と課題を振り返り練習を行う。				
	30			4. ポイント確認		5. 条件付きゲーム						
	40			※試しのゲーム理解	※課題の発見	レシーブを前衛に返す	アタックを決める	3 段攻撃を決める				
50	学習の振り返り・次時の確認											
評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	評価方法
	知識			①	②							総括的な評価 学習シート 観察 学習シート 観察 学習シート 観察
	技能					①	②			③		
	思・判・表							①	②	③		
主体的に学習に取り組む態度	④	①				③		②				
単元の評価規準	知識	①戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることを言ったり書き出したりしている。 ②練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察の方法があることを言ったり書き出したりしている。										
	技能	①攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができる。 ②腕を強く振ってネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。 ③ポジションの役割に応じて、拾ったり打ち返したりすることができる。										
	思・判・表	①自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法について、自己の考えを伝えている。 ②チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返っている。 ③体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間と共に球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見つけている。										
	主体的に学習に取り組む態度	①球技の学習に自主的に取り組もうとする。 ②作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。 ③互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。 ④健康・安全を確保している。										

5 本時の指導（8時間目／全10時間）

(1) 目標

3段攻撃を成功させるために、チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返ることができる。

(2) 本時の評価規準

チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返っている。（思考・判断・表現）

(3) 校内研究との関連

【視点1】自分の考えを進んで表現する力の育成について

チームタイムではチームの課題を一人一人が自分の考えを記入しそれを全体共有する。様々な視点からでた考えをまとめチーム練習へとつなげる。

【視点2】自ら課題に粘り強く取り組む力の育成について

チームタイムでは仲間と共に課題解決学習に臨むことで、自分だけでは解決できない問題も力を合わせることで乗り越えさせたい。

(4) 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	1. ウォーミングアップ 2. 学習課題の明示	・健康観察を行い、事前に体調不良やけがを防ぐ。 ・ネット準備等は安全に行わせる。	・ホワイトボード ・ボール ・ICT機器
3段攻撃を成功させよう。			
展開 38分	3. サーキットドリル 4. ゲームⅠ 5. チームタイム 【対話的活動】 ゲームⅠの振り返り。成果と課題の確認およびゲームⅡに向けた作戦会議。初めはペアで、その後グループで合意形成を図りチーム練習を行う。 6. ゲームⅡ	・タイマーを使いスピーディーに行う ・チームの作戦や目標を明確にしてゲームを行う。 ・自分たちの課題を話し合う。それをもとに作戦を練ったり練習を行ったりする。 ・チームタイムで練習した成果を試す。	・前時に動画撮影をしたものを見せ良いプレーを全体共有する。 ・ゲームⅠと同じ対戦相手と試合を行う。 【思判表②】 学習シート 観察
振り返り 7分	7. 学習のまとめ 8. 片付け、あいさつ	・次時のまとめのゲームに向けてチームの反省を行う。 ・協力して片付けを行う。けがに注意させる。	・学習シート（PC） ・振り返りを全体共有する。

6 参考資料

(1) 第3学年「球技」全ての単元の評価規準

知識	<ul style="list-style-type: none"> ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを言ったり書き出したりしている。 ・戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることを言ったり書き出したりしている。 ・ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができること具体例を挙げている。 ・練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察の方法があることを言ったり書き出したりしている。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ・サーブでは、ボールをねらった場所に打つことができる。 ・ボールを相手側のコート上の空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。 ・攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールをあげることができる。 ・ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。 ・腕を強く振ってネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。 ・ポジションの役割に応じて、捨ったりつないだり打ち返したりすることができる。 ・味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。 ・連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くことができる。
思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ・選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。 ・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法について振り返っている。 ・ルールを守り競走したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。 ・チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返っている。 ・作戦などの話合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。 ・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間と共に球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見つけている ・球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重するなどのフェアプレイを大切にしようとしている。 ・作戦などについての話合いに貢献しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。 ・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。 ・健康や安全を確保している。

(2) 指導事項の配置

		第3学年 (バレーボール)										第3学年 (バドミントン)										
観点	指導事項	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
知識	1. 技術の名称や行い方											○	○	●								
	2. 戦術や作戦に応じて技能を適切に発揮する。			●																		
	3. 関連して高まる体力												●									
	4. 運動観察の方法				●																	
技能 ネット型	1. サービスをねらった場所に打つ															●						
	2. ボールを空いたところやねらった場所に打つ																●					
	3. 次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げる					●																
	4. ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりする						●															
	5. 腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込む							●														
	6. ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりする									●												
	7. ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーする						※														●	
	8. 連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動く			※																●		
思考力、 判断力、 表現力等	1. 成果や改善すべきポイントとその理由を伝える																		●			
	2. 課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝える								●													
	3. 選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選ぶ																					
	4. 体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返る														●							
	5. よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返る																					
	6. 役割に関する成果や改善すべきポイントについて自己の活動を振り返る									●												
	7. 合意形成するための関わり方を見つけ、仲間に伝える																					
	8. 仲間とともに球技を楽しむための活動や修正の仕方を見つける								●													
	9. 運動を継続して楽しむための関わり方を見つける																				●	
主体的 に学習 に取り組む 態度	1. 自主的に取り組もうとする		●																			
	2. フェアなプレイを大切にしようとする	※									※											
	3. 作戦などについての話し合いに貢献しようとする								●													
	4. 一人一人の違いに応じた挑戦などを大切にしようとする													●								
	5. 互いに助け合い教え合おうとする					●																
	6. 健康・安全を確保する	●										●										

●重点指導機会 ○複数回での指導機会 ※評価対象とせず指導する機会